

令和3年度
上野法律ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会結果報告書

令和 4 年 6 月 30 日

学校法人上野教育学園
上野法律ビジネス専門学校
理事長 久保田 高永

令和 3 年度学校関係者評価報告

学校法人上野法律学園上野法律ビジネス専門学校では、本校規程に基づき、学校関係者評価委員会を令和 4 年 6 月 15 日に開催いたしました。以下に、その内容をご報告いたします。

今後教職員一同は、各評価委員よりのご意見等を踏まえまして、教職員一同は更なる専
教育内容の向上及び適正な学校運営の確保に努めていく所存でございます。

引き続き、一層のご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

1. 学校関係者評価委員名簿および学内出席者

氏 名	所 属	役職等
土川 英司	盛岡市材木町商店街振興組材木町青友会	会長
中野 潤一	株式会社東北銀行	夕顔瀬支店長
清水 友博	盛岡市役所（本校卒業生）	市長公室都市戦略室
野中 美優	社会福祉法人 手をつなごう（本校卒業生）	さわら園
和田 勝弘	上野法律ビジネス専門学校	副校長
佐々木 茂	上野法律ビジネス専門学校	教務課
秋庭 裕史	上野法律ビジネス専門学校	教務課
恩田 陽子	上野法律ビジネス専門学校	教務課
工藤 正剛	上野法律ビジネス専門学校	教務課

2. 委員会次第

- (1) 開会・委員長挨拶
- (2) 委員紹介
- (2) 学校関係者評価委員会の趣旨・目的等の説明
- (3) 令和 3 年度本校取組・自己評価等の結果報告及び質疑応答
- (4) 令和 4 年度本校取組について質疑応答
- (5) 閉会

3. 内容

副校長和田勝弘より、開会挨拶の後、教務課佐々木茂より委員の紹介・委員会の趣旨・目的等の説明を行った後、令和3年度自己評価等の結果を、副校長和田勝弘、教務課佐々木茂より、各評価項目について報告を行った。その後、当該報告に基づいて、関係者委員の皆様と質疑応答を行い、意見提言を受けた。

(1) 教育理念・教育目標

5つの評価項目とも全て最高評価を付けた。令和3年度は入学式・卒業式を通し学生・保護者とも当校の理念・教育目標を伝えることができた。また、学生には学生ハンドブックにより更に深く理解させることができている。

(2) 学校運営

「13. 職業実践専門課程専攻分野における企業・団体等と連携した事業及び教員の研修はできているか」と「14. 情報化システム化等により業務の効率化が図られているか」の二つの評価項目を追加した。職業実践専門課程は認定後3年を経過し軌道に乗ってきている。また、システム化は将来在宅勤務が可能になるように準備中である。

(3) 教育活動

「7. 学生・保護者等によるアンケートにより授業評価の実施・評価体制があるか。」について。事業評価は行っていたが、より明確にするため項目名を変更した。

「15. 教育内容の改善を図るため教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか」について。非常勤講師が増えてきたために追加。定期的な情報交換を行っていききたい。また、教員に対する研修については今後改善・強化していく。

(4) 学修成果

「2. 資格取得率の向上・資格に関する目標が図られているか。」については、学目自身に目標を掲げさせていく。「4. 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか。」に関しては卒業生の動向を把握していないため、退職率の調査を今年度から実施していく。就職活動についてはWEB対策について現在はしっかり対応できている。評価委員より以前より首都圏への就職が少なくなっておりコロナ禍の影響があるのかという意見をいただいた。コロナ禍により地元志向は強まっており、職業実践専門課程が地元就職を推奨していることも影響があるかもしれないと回答した。また、鉄道会社への就職が減少しているようである意見をいただいた。鉄道会社ではコロナ禍により採用人数を絞られており専門学生が入りにくい状況であった。企業はポテンシャルの高い学生を求めていると回答した。

(5) 学生支援

「15. ハローワーク等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか」に関して、具体的に「ハローワーク」と明記した。委員よりハローワークとの具体的連携について指摘があり、現状連携は行っていないが、将来はリカレント教育の強化を行っていききたいと回答した。また卒業生との繋がりを大事にしていきたく将来はOB会の結成を考えたい。また、「16. 退学率の低減・中途退学の原因・傾向等を把握しているか」について。中途退学の原因・傾向の分析は不十分であり分析等を行う必要がある。今年度は、入学式において保護者会を実施した。早い段階での連携が以前よりは取れている。

(6) 教育環境

法令に従い必要な施設設備の点検・修理修繕等を行っている。また、追加した「4. 学内の整理整頓清掃に関する定期的なチェックが行われているか」については、当校では徹底している。

(7) 学生募集

新型コロナウイルス感染症の規制が緩和されているため、高校訪問等を再開している。またオンラインによる説明にプラスして動画による学校説明ができるようになった。

(8) 財務

「1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。」を3から4に改善。最近日本人学生が減ってきている。それを補って、日本語学科に留学生が入学している状況である。評価委員より留学生の日本入学のニーズと卒業後の進路について質問があった。この4、5月に入学した学生はコロナにより2年間入国を待っていた学生であり、今後とも日本への留学にニーズは非常に高い。また進路先としては大学・専門学校等であり当校の専門課程にも何名か入学しており、手に職をつけたい学生が多いと回答した。

(9) 法令遵守

4つの項目すべて昨年度と変わらず、最高評価にしている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価は昨年度と同じ。「2. 社会的活動（地域活動・ボランティア等）を評価しているか。」について。ボランティアは単位認定が難しいため、単位という文言を削除した。また、昨年度に引き続き地元商店街での販売活動を学生自ら企画・運営して行った。

評価委員よりコロナ禍も落ち着き地域イベントが開催されつつあり、今後も地元商店街と連携した事業を行っていききたい旨の意見をいただいた。今後も地元商店街との連携は強化する。さらに平日の材木町通りの歩道における販売ができるようになればぜひと

もに販売活動をしたいと回答した。

(11) 国際交流

「3. 国際交流が行われているか」については実現が難しいと判断し昨年の文言を修正している。また現在、日本人学生と留学生の合同授業を行っており今後も合同授業は増やしていきたい。留学生で『おもてなし隊』を結成して盛岡駅で観光客をお迎えした。また留学生の岩手を紹介する作品を学内外のコンテスト等で発表しており、高い評価をいただいている。評価委員より留学生の出身国について質問があり、日本語学科の学生の出身国はバングラデシュとネパールであり、専門課程の学生の出身国はバングラデシュと中国である旨回答した。

最後に公務員系学科の状況を発表した。公務員試験は 昨年度、一次試験 95.6%、最終 95.7%と高い実績だった。しかし、100%ではない。とりこぼした学生については、民間就職活動に切り替えている。公務員を諦められない学生については、行政学科への編入となる。それを改善するには、教育内容、教務内容をいかに実現していくか。一つひとつの授業を確実に実施する。学生との間にいかに信頼関係を築くかも大事である。

パンフレットの最後に当校の教育理念を載せている。「たった一人の実績よりも学生全員が納得できる実績こそ専門学校存在価値であり使命と考えます。」——教員一丸ととなって取り組み、今後の活動を進めていく。

4. まとめ

例年同じような発表をしているが、同じ評価を継続していくことは難しい。しかし、継続こそが学生からの評価につながると考える。全体を通じて、質の高い教育が実践されているとの評価をいただいた。高い就職率・高い公務員合格率や実践授業、社会・地域貢献だけではなく、本校の教育理念に基づく全人格的教育に共感をいただいたと考えている。

今後も岩手の専門学校として地元役に役立つ視点、国際交流の視点等を大切に、今後も地域社会や企業・団体等との連携を図りながら、変化する社会に対応できる人物の育成を行う専門学校として発展ができるように、教職員全員で協力して努めていくことを確認して閉会した。

以上